

こども支援部会		
部会設置の 目的	障害児に関わる機関、事業所が集まり、情報共有や意見交換を行い、こどもが暮らしやすい地域をつくる ＊機関や事業所を越えて、顔の見える関係を作る ＊支援者のスキルアップ、支援の振り返りの機会とする ＊地域課題を拾い、課題解決へ取り組む	
今年度の 開催状況	＊幹事会…①4/23、②5/28、③7/3、④9/3、⑤10/8、⑥11/12、⑦12/18、⑧1/9 ＊部会…第1回：9/18、第2回：1/17	
今年度の 課題認識・ 取組の意図	①様々な機関や事業所が集まり、日々の支援について情報共有・意見交換し、支援の視野を広げる ②本人の意思決定支援を追求するために、支援者の支援の偏りに気づき、幅広く対応できる技術を身につける ③こどもの権利や成長も見据えた長期的な支援を考える	
今年度の 取組内容	課題認識① 日々の支援について情報共有・意見交換し、支援の視野を広げる 課題認識② 意思決定支援を追求するために、支援者が偏りに気づき、幅広く対応できる技術を身につける ☞どんな取組をした？ ✓第1回部会「意思決定支援について～やってるつもり？意思決定支援～」を開催（9/18） ・75名参加 ・講話：「どう考える？子どもの意思決定支援」（横浜市北部地域療育センター 橋本氏・尾形氏） ・事例発表：「本人の意思を知る～感覚過敏による不登校からの歩み～」（たすく横浜・センター南） 「“やらない”ことを経験する支援」（フレンズジム南山田） 「自分で選ぶ」力を育てる～学校での活動場面より」（北綱島特別支援学校） ・グループワーク：キーワード「日々点検」「真のニーズ」「目標達成」「理想と現実」「こどもの権利」を用いて …<u>幼少期から本人の意思を確認することで、本人が選択し決定することに繋がる</u> 「本人」「家族」「支援者」のニーズの狭間で<u>支援の視点に偏りがいないか振り返りの場</u>となった 課題認識③ こどもの権利や成長も見据えた長期的な支援を考える ☞どんな取組をした？ ✓第2回部会「こどもの権利を守るために～保護者と支援者がつながりを越えて～」を開催（1/17） ・65名参加 ・制度説明：「子どもの権利条約について」（区こども家庭支援課こどもの権利擁護担当 宮崎係長） ・グループワーク：「行事参加」「偏食」「不登校」の“あるある”エピソード対して話し合った ・私ならどう支援する？ ・私が考える「こどもの最善の利益」とは？ ・私が考える「こどもの権利」とは？ …<u>よくある日常場面が、こどもの最善の利益の追求や権利擁護につながっていることを体感した</u>	
今年度の 成果と課題	成果	○日々の支援を振り返ることで支援の偏りに気づき、改めて本人ニーズの大切さを確認できた ○部会に成人の支援者（相談支援部会）にも参加してもらうことで、こどもの支援の共有とともに、 児童期に支援の土台を作る大切さ、成人期へ繋げていく意識づくりができた ○日々の支援の中で、「何が本人の最善の利益か」という視点で、本人やその環境に合わせた支援の 工夫をすることによって、こどもの最善の利益や権利を守ることができることを確認した

今年度の 成果と課題	地域課題	● ライフステージの変わり目で支援が途切れる、支援者がつながりにくい ● 子育ての孤立感…親が抱え込み、親がみられなくなるまで相談をしてこなかったという家庭もある こどもの時から必要な支援につながり、成人になる前から自立を考えるサポート づくりが必要 ● 家族（保護者やきょうだい児）への支援体制が脆弱…家族支援を専門的・特化して行っている 相談窓口が少ない ● 子のニーズへの注目度は高いが、家族の関係性を含め、保護者のニーズに対するアプローチが課題 ● 保護者が成人した子に対して一人の大人として関わられるように、相談できる支援者の存在が必要
	部会運営 の課題	● 機関や事業所によっては、日々の業務が多忙で部会に参加することも難しい場合もある ● 部会を越えた地域や成人期の支援機関とのつながりも必要 ● 地域課題への解決に向け、インフォーマルな機関を含めた情報交換、地域づくりが必要
他の部会に 聞きたい事／ 共通課題	● ライフステージの変わり目で支援が途切れる、支援者同士もつながりにくい ● 必要な支援につながりにくい方（本人・家族）への支援の手法や仕組みが必要 ● 家族（保護者やきょうだい児）への支援体制が脆弱	
今後の取組	☆ 成人期の支援機関の連携できるような取り組み ☆ こどもの時から必要な支援につながりやすい地域づくり ☆ 本人や家族が地域の活動や支援機関の情報が得られ、選択できるような取り組み ☆ 家族への支援ができる地域づくり	